

焼火の伝統



特集

焼火神社 初詣り

島前では旧正月の期間中に集落単位で焼火神社たくひじんじやに参詣する事を「初詣り」と呼んでおり、この時期、週末になると焼火神社へ向かう一行が列をなして登山する姿が見られます。

今回は、古くから行われている民俗行事「焼火神社の初詣り」についてご紹介いたします。

歴史や背景

焼火山には旧大晦日にご神火が海中から現われ、岩屋に入ったという信仰があります。このご神火を拝むため、毎年籠りが行われ大晦日には隠岐中から1,000人以上集まり賑わっていました。元来初詣りは、その「年籠り」を指していたとされていますが、その時参れなかった者は旧正月に参拝するようになり、これが初詣りといわれるようになりました。

初詣りの祈願が終わったあとは社務所で直会なおひが行なわれます。一人一人に式膳がついており、神葉草じんばそう(ホンダワラ)の酢の物が必ず付けられ、現在でも初詣りの名物となっています。直会では、集落の皆でお酒を飲みながら談笑し、歌や踊りも出て賑やかなひとときを過ごします。直会後は「おこし」をお土産に買い、焼火山から見渡せる島前カルデラを目に下山します。

(参考：西ノ島の今昔)

焼火神社について

焼火山(海拔452m)の中腹にある焼火神社は日本海の船人に海上安全の神と崇められています。旧暦12月30日の夜、海上から火が三つ浮かび上がり、その火が現在社殿のある巖に入ったのが焼火権現の縁起とされ、現在でもその日には龍灯祭りゆうとうさいという神事が行われています。

社殿は享保17年に改築されたもので大阪で作成された地元で組み立てるといふ当時としては画期的な建築方法で造られました。平成4年には国指定の重要文化財に指定されています。



▲焼火神社

交通アクセス

別府港から登山道まで車で約15分。
登山道から神社までは徒歩で約15分。





3



1



4



2

①松浦宮司によるご祈願②神前から帰って式膳につくと宮司による盃事が行われる。③式膳（御飯・お神酒・神葉草の酢味噌和え・塩サバの煮つけ・煮豆・味噌汁・湯呑）④盃事の後は直会が開かれます。お酒が入り、歌や踊りで賑やかな時を過ごします。

して船人から崇められています。
この妖怪ブロンズ像は「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる氏のデザインによるもので、西ノ島町の玄関口別府港フェリーターミナルに常設されています。西ノ島町に訪れた方を、いつも笑顔で出迎えます。



『焼火権現』は、西ノ島町にある「焼火神社」のご神体であり、海上安全の神として

たくひごんげん 焼火権現

※日程は追加される場合があります。
※天候等により、日程は変更される場合があります。

2017年2月の日程(予定)	
4日(土)	波止・大山
5日(日)	別府・美田尻・小向
12日(日)	海士(北分・菱浦)
18日(土)	西ノ島中学校2年生 知夫(郡・大江・薄毛・多沢・来居・古海・仁夫里)
19日(日)	船越
26日(日)	大津・市部 海士(福井・東)

インタビュー Interview

島の伝統行事を
より良い形で後世へ

これまで「初詣り」を一番近くで見えてきた焼火神社第21代目宮司である松浦道仁さん。松浦さんは、幼少の頃、現在の焼火神社の社務所に住まわれており、物心が着く頃から毎年、初詣りを見て育ったと言われます。

学生時代に島を離れ、再び島に帰って来たら30年以上初詣りに携わってきた松浦さんは、波止地区の区長も務められており、昔に比べ集落内で交流が減ってきていることに懸念を抱いておられます。

「初詣りへ行くことで、直会等を通じ、各集落内の交流を持つきっかけになれば」と言われます。

西ノ島町には、精霊船や十方拜礼など伝統深く素晴らしい文化財が沢山あります。「これらとともに長年続いてきた伝統ある年中行事『初詣り』もより良い形で後世に継いでいくことが大切」そのように松浦さんは語られました。



焼火神社宮司
松浦 道仁さん